ALT通信 VOL.63

このコーナーは、ALT（外国語指導助手）による
エッセイを、英語と日本語で紹介します。

The blizzard is one of my favorite Mizokuchi memories. My friend Michael came for the weekend and made it before the trains stopped. On Saturday morning, we went to Nibu and explored the towns there. We hiked up the hill by the temple and I could hear the thoughts of the bamboo trees. Complete peace. We walked to Yakisugi as the snow fell and fell, and all these towns I see every week looked like a whole new country.

We hitchhiked back to Mizokuchi and the snow kept falling and falling. We decided to go to Mizokuchi's town square in front of the yakuba and play a concert. When would such an intense snow happen again? My chest screamed, *"Live! Live!"* Quickly, we made a sign saying *"Your own original masterpiece song for free!"* Then, we marched down the street playing guitar, singing and Michael blowing his harmonica. It set my blood on fire. We played two new songs for people who stopped.

And together, still singing, we marched to the train station and sang songs to the people waiting for their trains. Then we finished. The last notes died. My fingers were frozen red and the guitar was buried in snow.

A blizzard makes me feel like a new human being. The world turns white like a new page. All my mistakes, all my anxiety. . .they are nothing in the new snow. They dissolve like water. The new snow promises new life. A new Houki-cho. A truly blank world. You can do anything in the world. Anything at all.

So we sang and sang and sang. Peter

溝口駅で熱唱中の冷凍マイケル

吹雪は、僕の好きな溝口ならではのもののひとつです。

週末に、友人のマイケルがやって来た電車を最後に、吹雪で止まってしまいました。土曜日の朝、僕たちは二部に行き、そこで町探索をしました。お寺のそばの丘を登って、竹のざわめきを聞くことができました。本当に平和。僕たちは雪がどんどん降る中、焼杉まで歩きました。僕が毎週見ているこの町はまったく新しい国のようでした。

僕たちは溝口までヒッチハイクで戻りました。雪はずっと降り続けていました。役場の前の広場に行ってコンサートをすることにしました。いつまたさっきみたいな大吹雪になるやら。僕の胸は高鳴りました。「生きてる！生きてるって感じだ!!」さっそく僕たちは「あなただけの傑作オリジナルソング作ります」という看板を作りました。そして、ギターを弾いて、歌って、マイケルはハーモニカを吹きながら、溝口の通りをずっと歩きました。興奮を通り越してもう情熱のかたまりでした。僕たちは、立ち止まってくれた人たちに２曲新しい曲を弾きました。

僕たちはまた一緒に溝口駅まで歌いながら練り歩き、駅で列車待ちをしている人たちに歌を歌ってあげました。それが最後でした。最後はもう音色と呼べるものではありませんでした。僕の指はもう真っ赤になって凍っていて、ギターは雪に埋もれていました。

吹雪はまるで新しい人間であるかのように自分自身を感じさせます。世界は新しいページをめくるかのように白く変わっていきます。僕のすべてのあやまち、すべての不安…。この新雪に飲まれたらもうそんなのなんでもなくて、水のように溶けてなくなります。新しい雪は新しい人生をなにか期待させてくれます。新しい伯耆町。真の空白の世界。ここでならなんだってできます。何でも。

溝口駅でライブ中の冷凍ピーター

だから僕とマイケルは歌って歌って歌いまくったのです。 ピーター

日光集落支援員 活動レポート vol.09

「やってみたい」を形に

日光地区集落支援員として活動させていただいています、井中友子です。今年度もよろしくお願いいたします。昨年度は、添谷集落を中心に意見交換会やアンケート調査などを実施し、集落の状況を把握してきました。今年度は、活動の幅を日光地区の全集落に広げ、意見交換会やアンケート調査などを行いたいと思います。

日光地区の本質を見つめ、本当に必要なことは何かを見つけていきます。まだまだ、日光地区でもお会いしたことのない人が沢山おられますので、積極的に住民の中に入り、顔を覚えてもらえるよう、お話を聞かせてください。

意見交換会の様子